

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年 国語 121人 社会 121人 数学 120人

理科 120人 英語 120人

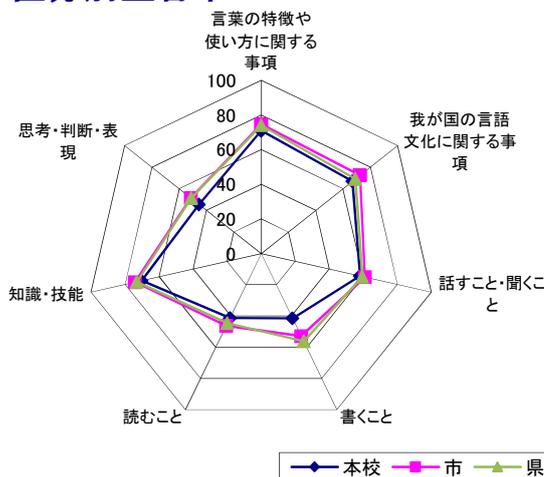
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.0	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	66.9	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	58.1	60.9	59.5
	書くこと	41.5	52.8	56.2
	読むこと	41.2	46.2	44.5
観点	知識・技能	70.2	74.2	73.1
	思考・判断・表現	45.5	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

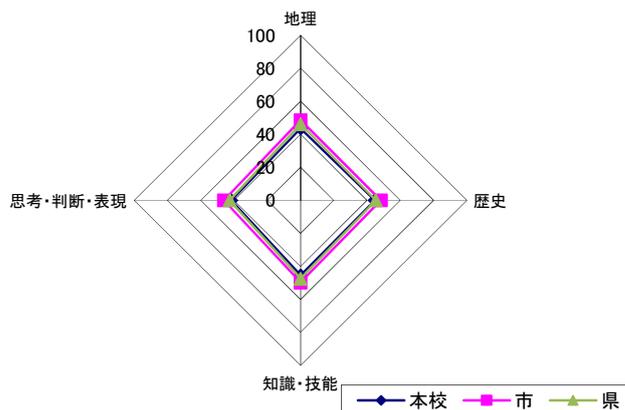
○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>本校の平均正答率71.0%は、本市より3.7ポイント、県より3.1ポイント下回った。</p> <p>○漢字の読みは、概ね市や県よりも高い正答率であった。</p> <p>●漢字の書きが、全体的に低い。また、「文節どうしの関係」や「敬語の働き」の問題も低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字においては、部首・読み・頻出の熟語・使用例をセットで定着させていく。 ・既習漢字も繰り返し文章中で使用することを促すことで、漢字を使う習慣を身に付ける。 ・文法に苦手意識を持つ生徒が多いので、生徒の実態に沿った授業の展開や反復練習などを工夫して行い、基礎・基本の定着を図る。
我が国の言語文化に関する事項	<p>本校の平均正答率66.9%は、市より5.6ポイント、県より2.2ポイント下回った。</p> <p>○「漢字の行書の基礎的な書き方」についての問題では、正答率が7割を超えた。</p> <p>●「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書く」問題では、4割以上の無回答率が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の状況や作者のものの見方・考え方について読み取り、古典の世界に親しめるようにする。 ・歴史的仮名遣いについては、古文の音読を推奨することで、耳で聞いて音を覚え、目で追う文字との違いをより意識させる。 ・現代との共通点や相違点を発見させ、自分が登場人物の立場だったらどうするかなど、身近に感じさせる授業を実践する。
話すこと・聞くこと	<p>本校の平均正答率58.1%は、市より2.8ポイント、県より1.3ポイント下回った。</p> <p>○「1-2司会者の話し合いの進め方」についての問題では、市や県の平均よりも高い正答率であった。</p> <p>●「1-4条件に従って話し合いの結論を書く」問題では、市や県の平均から5ポイント以上低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手の反応を見ながら話すことで、分かりやすい話し方の工夫を考えさせる。 ・相手の発言のどの部分に説得力を感じたのかを話し合うことで、様々な情報の中から、自分で判断して選択する力を身に付けさせる。 ・相手や目的に応じた話の内容や構成を工夫することで、自分の考えを深めさせる。
書くこと	<p>本校の平均正答率41.5%は、市より11.3ポイント、県より14.7ポイントも下回った。</p> <p>○指定された長さで、自分の考えを文章で書くことはできている。</p> <p>●「6-2 2段落構成で文章を書く」問題では、県より17.3ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作文の課題については、設問にある条件を満たせるよう、問題を注意深く読み解くクセを着けさせる。 ・授業の中に短作文を書かせる時間を取り入れて、型や例文を示しながら文章を書く習慣を身に付けさせる。 ・自分の考えが相手に伝わるような、説得力のあるわかりやすい構成や根拠を考えさせる場面を設定する。
読むこと	<p>本校の平均正答率41.2%は、市より5.0ポイント、県より3.3ポイント下回った。</p> <p>○「4-4 説明文の内容について捉える」問題は、市や県よりも高い正答率であった。</p> <p>●「4-1 適する段落の番号を選ぶ」問題は、市や県の平均から8ポイントほど低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開を捉えるために、段落の役割や段落どうしの関係に着目させたり、まとめりどうしの関係について注意させたりして、内容を理解する力を身に付けさせる。 ・作品を読み深めるために、登場人物の言葉や行動を考え、人物像に着目させる。 ・授業の中で文章に使われている語句の意味をしっかりと捉え、語彙力を高めさせる。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	43.5	48.6	46.2
	歴史	44.7	48.3	45.3
観点	知識・技能	45.4	49.8	47.5
	思考・判断・表現	41.6	46.1	42.7



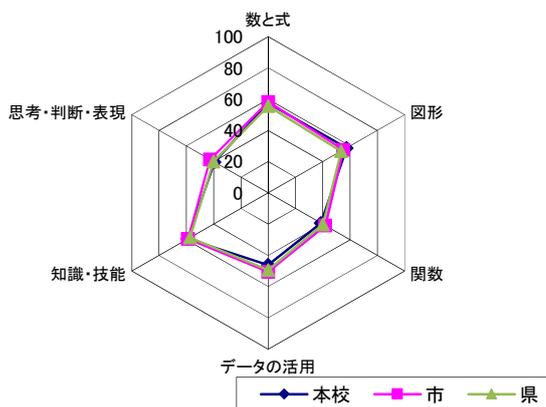
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>本校の平均正答率43.5%は市平均より5.1ポイント、県平均より2.7ポイント下回った。</p> <p>○「アフリカの国境画定の経緯について選ぶ問い」、「中国の経済発展について関わりのある図を選ぶ問い」は、県平均の正答率を上回った。</p> <p>○選択形式の問いは解答率、正答率ともに高かった。単元ごとでみると、時差などの問いは正答率が高い。</p> <p>●「複数の資料から、リビアの課題を記述する問い」記述形式や、複数の資料を用いて解答する問いは正答率、解答率ともに低かった。</p>	<p>・未解答率が高く、正答率も低かった。「複数の資料から読み取れる内容をもとに記述する問い」への対策として、授業において以下のことに取り組む。</p> <p>①記述式の問いになるように、発問を工夫する。(ICTも利用)</p> <p>②すぐに相談するのではなく、1人で考え、間違ってもよいので書いてみるよう指導する。</p> <p>③解答を数名板書させ、クラス全体で吟味する時間を設ける。</p> <p>・アフリカ州の地域の課題や特色を、人々の生活をもとにして大観させるよう課題の工夫を行う。</p>
歴史	<p>本校の平均正答率44.7%は市平均より3.6ポイント、県平均より0.6ポイント下回った。</p> <p>○「法令の名称を答える問い」、「中継貿易についての図を選ぶ問い」、「聖武天皇が仏教を尊重した理由を選ぶ問い」は、県平均の正答率を上回った。</p> <p>●「複数の資料から、偽籍を行った理由を記述する問い」は、県平均の正答率を下回った。</p> <p>●記述形式や、複数の資料を用いて解答する問いは正答率、解答率ともに低かった。</p>	<p>・未解答率が高く、正答率も低かった。「複数の資料から読み取れる内容をもとに記述する問い」への対策として、授業において以下のことに取り組む。</p> <p>①記述式の問いになるように、発問を工夫する。(ICTも利用)</p> <p>②すぐに相談するのではなく、1人で考え、間違ってもよいので書いてみるよう指導する。</p> <p>③解答を数名板書させ、クラス全体で吟味する時間を設ける。</p> <p>・各時代の特色を大きくとらえ、他の時代との共通点や相違点に着目して意見交換するなど、中世の日本を体感できるように、活動を工夫する。</p>

宇都宮市立国本中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	57.4	58.2	55.5
	図形	57.6	55.1	53.5
	関数	38.7	41.9	40.2
	データの活用	46.2	50.5	49.4
観点	知識・技能	58.9	58.8	57.3
	思考・判断・表現	39.6	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

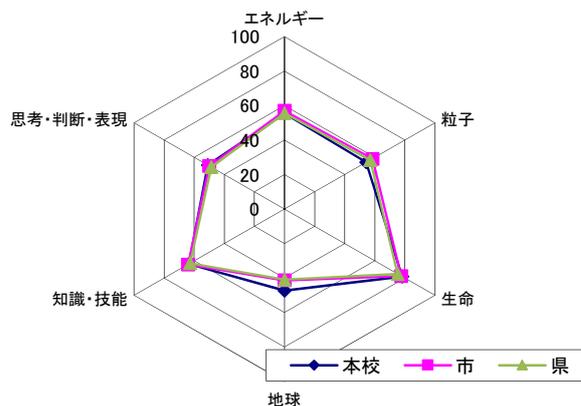
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>本校の平均正答率57.4%は市平均より0.8ポイント下回り、県平均より1.9ポイント上回った。</p> <p>○正負の数の計算や文字式の計算、方程式など基本的な計算問題は、市平均を上回る正答率のものが多い。</p> <p>●計算の工夫や方程式の利用など応用問題では、市平均を下回るものが多い。</p>	<p>・基礎基本が定着している様子が見られるため、引き続き多くの問題に取り組みせ、速く正確に計算できるよう指導していく。</p> <p>・応用問題に関しては、解法の手順について丁寧に解説し、未回答の生徒が減るよう指導していく。</p> <p>・答えにたどり着くまでのステップが多い問題は、ポイントを押さえた解説を心掛け、ミスが減るよう指導していく。</p>
図形	<p>本校の平均正答率57.6%は市平均より2.5ポイント、県平均より4.1ポイント上回った。</p> <p>○作図や図形の移動、わけの位置など知識・技能を問う問題は、市平均を上回っている。</p> <p>●立体の体積や側面積を求める応用問題は、市平均を下回っている。</p>	<p>・基礎基本が定着している様子が見られるため、引き続き多くの問題に取り組みせ、より多くの知識を身に付けられるよう指導していく。</p> <p>・円柱、円錐、おうぎ形など円が絡む問題に苦手意識を持っている生徒が多いため、中心角の考え方やπの使い方を確認する問題に多く取り組ませっていく。</p>
関数	<p>本校の平均正答率38.7%は市平均より3.2ポイント、県平均より1.5ポイント下回った。</p> <p>○式やグラフを求める問題は、市平均程度の正答率になっている。</p> <p>●式やグラフから必要な値を求める問題では、市平均を下回っている。</p>	<p>・式やグラフを求める基本的な問題は理解できている様子が見られるため、引き続き多くの問題に取り組みせ、より多くの知識を身に付けられるよう指導していく。</p> <p>・利用の問題では、文章から情報を読み取り、求めた式やグラフから必要な値を求められることが理解できるよう指導していく。</p>
データの活用	<p>本校の平均正答率46.2%は市平均より4.3ポイント、県平均より3.2ポイント下回った。</p> <p>○中央値や最頻値などの階級値について答える問題の正答率は、市平均を上回っている。</p> <p>●データの傾向を読み取り、説明する問題では、市平均を下回っている。</p>	<p>・階級値など、基本的な知識は身に付いているため、読み取ったデータ同士を比較し、それぞれの特徴を読み取れるよう、何を求めたいのかを明確にして解けるよう指導していく。</p> <p>・相対度数に苦手意識を持っている生徒が多いため、求め方や利用法を復習する場を設ける。</p>

宇都宮市立国本中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	55.5	57.0	55.7
	粒子	54.3	58.6	56.9
	生命	78.2	77.5	75.2
	地球	47.2	41.4	40.9
観点	知識・技能	63.6	64.1	62.8
	思考・判断・表現	51.0	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

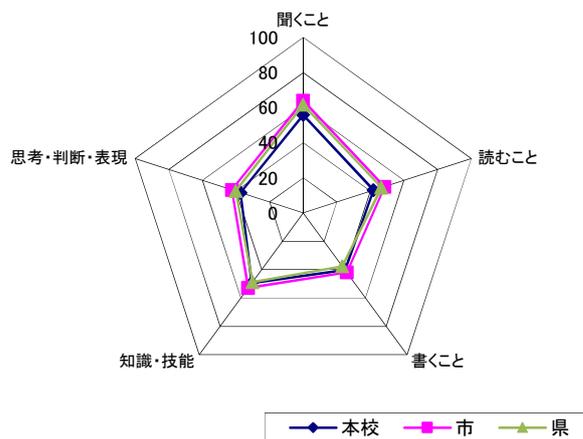
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●理科全体の平均正答率は、市の平均とほぼ同じであり、県を上回った。 ○思考・判断・表現の区分では、市の平均よりやや高い。 ●エネルギー分野の平均正答率は、市の平均よりも1.5ポイント下回った。県の平均とはほぼ同じである。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ピンホールカメラやストローのリード等、生徒の興味・関心を高めるような導入を継続していく。 ●漢字を正しく読めない生徒が一部にいることを、授業を通して感じる。語句の理解、文章の読み取りついて、教科横断的に指導していく。
粒子	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、市の平均より4.3ポイント下回った。 ●実際には見えないものをイメージすることについて課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●カード、動画等を活用して、粒子を視覚的にイメージできるように指導していく。 ●計算関係に課題がある。式の立案、分数・少数の計算について教科横断的に指導していく。 ●記述式の問題へ無回答率が、生物分野では0だが、溶解度では28.3ポイントであった。「表現する内容が思いつけるか、否か」が理由であると考え。筋道立てて考えることについて指導を継続していく。
生命	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、市の平均よりも0.7ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●本校は自然環境が豊かであり、生徒の生物への関心も高いように感じる。一人一台の貸与パソコンを使って校庭で生物を動画撮影したり、近隣の田んぼで採集したミジンコで顕微鏡観察を行ったりした。これからも実体験や身近な話題を大切にして、生徒の興味・関心を高めていく。
地球	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、市及び県の平均を上回った。 ○火成岩の種類を推測し、マグマの性質と結びついて考える問題等、県の平均を10ポイント以上上回る問題が複数あった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業では、実物の化石に触れたり、柱状図を紙で立体化したりと、丁寧に説明した。これからも興味関心を高める工夫を継続していく。

宇都宮市立国本中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	55.8	64.0	61.6
	読むこと	41.9	48.4	46.6
	書くこと	40.4	42.0	37.8
観点	知識・技能	49.5	52.9	48.9
	思考・判断・表現	37.3	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>本校の平均正答率は55.8ポイントで、市平均を8.2ポイント、県平均を5.8ポイント下回った。</p> <p>○絵を適切に表している英文を選ぶ問題では、7割以上の生徒が正答している問題もある。</p> <p>●情報を正確に聞き取り、「適切に応答すること」が特に低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> リスニングでは、自分が相手に何を聞かれているのか疑問詞や動詞を正確に聞き取れるよう注意して聞き取らせる。 対話を聞いて、話の概要を捉え、適切に応答しているものは何か判断できるようにする。 概要を捉えることができるようにし、答える時には単語ではなく、文で答えられるようにする。
読むこと	<p>本校の平均正答率は41.9ポイントで、市平均を6.5ポイント、県平均を4.7ポイント下回った。</p> <p>○be動詞や一般動詞の時制を読み取り、適切な形に変える問題の正答率は72.5ポイントと、県平均正答率(36.4ポイント)を2倍近く上回った。</p> <p>●疑問詞や代名詞を的確に捉え、解答する問題では、市平均を10ポイント以上下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 答えに対する疑問詞は何が適切か、何を聞きたいのかを判断し、適切に疑問詞が使えるようそれぞれの特徴を理解させる。 代名詞の内容を理解し、何を表しているのか捉えることができるよう語と語、文と文とのつながりを意識して読み取らせるようにする。 まとまった文章をどう読むか、どう捉えるかを理解し、概要を掴めるよう授業中にも大枠をとらえさせる質問を行う。
書くこと	<p>本校の平均正答率は40.4ポイントで、市平均を1.6ポイント下回ったが、県平均を2.6ポイント上回る結果であった。</p> <p>○how many ~を使った並べ替えや、現在進行形の肯定文、三人称単数現在形を使った文では、それぞれ県の平均を上回った。また、全体的に無回答率が低い。</p> <p>●適切な疑問詞を使って疑問文を作る問題では、正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に英文を書こうとする姿勢は見えるが、知識・技能が曖昧なため、正確な文法や語を使って英文を書けるよう語彙力を高めていく。 自分の考えを英語で表現して伝えようとする態度を育て、英語を使って表現できるよう、知識技能の定着を図る。 疑問詞を適切に使い、質問できるよう繰り返し練習させる。

宇都宮市立国本中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭での学習の取り組みに対する問い、「家で、学校の宿題をしている。」、「家でテストで間違えた問題について勉強をしている。」、「学校の宿題は、自分のためになっている。」、「学校の宿題は、やりたくなる内容だ。」については、肯定的に回答している割合が、県の平均を上回っている。今後は、宿題の内容をより精査し、生徒がさらに積極的に家庭学習に取り組めるように指導していく。

○学校での学習の取り組みに対する問い、「学習に対して自ら進んで取り組んでいる。」、「授業を集中して受けている。」、「クラスは発言しやすい雰囲気である。」については、肯定的に回答している割合が、県の平均を上回っている。

●一方で、「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)をまとめて書いている。」、「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる。」については、肯定的に回答している割合が、県の平均を下回っている。授業での学習内容を見通して授業に臨めるようにすることや、教員に対して発言しやすい雰囲気づくりを教員が意識して行う必要がある。

●本やインターネットなどを利用して勉強に関する情報を得ているか、という問いに対して、肯定的に回答している割合が、県の平均を下回っている。今後は、一人一台端末のより積極的な利用を促すなどして、効率的に必要な情報を得ていくように指導していく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
宇都宮モデルに基づく授業改善を通し、学びに向かう力の育成と学力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上プログラムを行うことで、基礎・基本の確実な定着を目指し、家庭学習の充実を図る。 ・各種学力調査結果の分析をもとに、宇都宮モデルに基づく授業改善の推進を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習に関する質問事項に関して、概ね県の平均を上回っており、大多数の生徒が学習に対して意欲が見られる良好な状況である。一方で、質問番号(28)「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている。」、(29)「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」、(30)「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」では、いずれも肯定的回答が県の平均を下回っている。学習指導の重点的な取組にもある「宇都宮モデルに基づく授業改善」に係る項目であることから、教職員への一層の周知徹底が必要である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・質問番号(20)「難しい問題にであつと、よりやる気がでる。」では、肯定的回答が県の平均を9.9ポイント下回っている。 ・質問項目(105)「国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。」では、肯定的回答が県の平均を10ポイント以上下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力を育成する教科指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の学習に対する前向きな姿勢を生かし、各教科でやや発展的な課題に取り組みせる機会を意図的に設定し、難しい問題に対する抵抗感を軽減していく。 ・授業のまとめとして振り返ったことを理由を含めて記述させるなど、考えや意見を理由とともにまとめさせる機会を国語の授業だけに限らず、全教科で設定し、継続的に実践していく。